

《活動概報》

当館収蔵の五木村関係資料整理

湯川 洋史

1. はじめに

当館は熊本市立の博物館でありながら、設立時に県立博物館がなかった関係から、市内にとどまらず県全域を扱う博物館として機能してきた。そのため、今回紹介する五木村をはじめ、天草など市域外の資料も収蔵している。

一方で、平成30年(2018)のリニューアルに際して、常設展示の内容が一新され、民俗分野では従来の県内を対象とした展示から、市域に限定した展示へと変わり、それに伴い資料の収集範囲をはじめ、館の活動についても県域から市域へとその規模を縮小させつつ、深化する方向へ向かいつつある。

上記のような流れの中で、民俗分野の課題のひとつが、市内に関する資料が限定的な点にある。これを改善するためには、館主導の能動的な資料収集が必要となる。だが、私が勤めはじめた時点では資料収集の予算はなく、実際的な収集方法としては寄贈という受け身の収集方法しか存在しなかった。

このような状況を改善するため、資料収集予算の確保に努め、僅少ではあるが、来年度にはひとまず解決される運びとなった。一方、多くの館が直面している課題でもある収蔵庫の問題がある。新たに資料を手に入れる手段を増やしたところで、それを収蔵する場所が確保できなければ無意味である。

収蔵庫の容量問題解決のため、収蔵庫の整理を現在おこなっている。その過程では、様々な課題が見つかり、都度頭を抱えながら、対処方法を模索・検討している。現状もその最中ではあるが、ある程度の青写真を描くこと

ができるようになり、段階としては1つステップが上がったところと言える。こうした資料整理については、また時期を見て、まとめたいて考えているので、ここでは簡単に概略を記しておくにとどめる。

2. 資料整理の概略

資料整理を始める前に、既存データベースや目録、資料寄贈関係書類、寄贈台帳などを突き合わせデータ上の整理をおこない、それを踏まえて整理方針と整理工程を作成した。また、当館民俗資料は2つの収蔵庫に収蔵されているが、この2つの収蔵庫の温湿度調整の難度には差があるため、民俗資料の分類や収蔵方法の基準としてよく採用されている文化庁による分類ではなく、その資料を構成する素材で収蔵庫を分けることを試みている。それに付随して、資料も分類ごとによる収蔵ではなく、収蔵スペースの最小化を目指し、資料の形状(棒や丸、四角など)を基準に収蔵することを目指している。

まとまりのある資料群ごとに整理をおこない、その整理がすんだ段階で、一部展示や館報などを活用し、その成果を公表するよう努めている。資料群とはいえストーリー性を持たせた企画展示や、常設展示に組み込むことが難しいものもあるため、そうした資料を常設でかつ速報的に展示可能な自由度の高い展示スペースとして、スポット展示エリアを設けた。

資料の整理を通して、資料の状態確認、清掃、時には燻蒸をおこなっている。資料状態の確認の結果、修理や補修、錆止めなどの対処が必要なものもリストアップしつつ、作業を進め、資料群として欠のある場合にはその資料を今後収集できるようそちらもリストの作成を準備しているところである。また、資料に本来

付随して収集すべき、使い方などの情報の欠や、市内行事なども電磁的記録などを用いながら、資料化していく作業も並行して計画中である。

こうした試みは私が熊本博物館に勤めはじめた2年前からおこない、昨年度の館報(注1)や館内常設展示の展示替えなどで、一部その成果を公表している。本稿はそうした流れの中で、現在取り組んでいる五木村関係資料の整理成果を報告するものである。先に整理し、公表した和傘関係資料(注2)は一群として一か所に収蔵されていた関係から、全体の確認と整理が容易だったが、今回は五木村という単位で資料群として捉えて整理をはじめたため、従来分類では食や諸職、農業や林業、衣服など多様な分類の資料を含み、収蔵庫内の様々な場所に収蔵されていた関係から、実物資料の把握と整理が予定通りにいかなかった。

そのため、今回の報告ではすべてを公表することは難しく、一部のみにとどまる概観的なものとなる。すべての把握が済み次第、また続報として紹介するつもりであるので、その点についてはご容赦願いたい。

3. 五木村資料の収集とその目的

当館の五木村民俗資料は、データ上確認できる限りでは、現時点で115点収蔵していることになっている。この内、36点を今回紹介する。

資料の収集時期は現時点で4期確認している。それは①昭和52年(1977)年4月7日、②同年8月8日、③同年8月16日、④昭和46年(1971)8月19日である。①～③は当館新館(現本館)建設時の常設展示リニューアルに際して収集したもので、④は昭和45、46年に国庫補助を受けておこなわれた県教

育委員会主導の川辺川ダム建設計画に伴う五木村水没地区民俗資料緊急調査時に収集したものである。

この内、新館常設展示のための資料収集は、③が当時の当館元民俗担当学芸員坂本経昌によるもので、①が平岡勝昭氏による収集、②が①の平岡氏収集後、坂本経昌が同行し受領したものである。④緊急民俗調査時の収集は、調査員として参加した坂本が直接現地で調査中に収集したものである。

川辺川ダム建設計画に伴う大規模な調査はほかに、昭和53年(1978)12月に総合調査団が結成され、54年から59年にかけておこなわれた調査がある。だが、この調査団に当館はかかわっていなかったため、この時調べられた民具に関しては当館に収蔵されていない(注3)。

また、五木村関係のまとまった報告書として、熊本商科大学(現熊本学園大学)の民俗学研究会によるものがある(注4)。この調査に伴う資料の一部が当館に寄贈されている可能性があるが、現時点では確定できていないので、これについては記すにとどめておく。

以上から、当館に収蔵されている五木村関係資料は、基本的には新館建設に際しての常設展示のリニューアルに際して収集されたものである。当時の常設展示の案内では、民俗分野の展示においては生産・生業に関する展示を基礎とし、平地、山地、島(天草)という3つの環境・地域別に展示していたことが知られる(注5)。この内、山地の資料として、五木村と五家荘の資料が展示されていた。その中でメインは焼畑であり、必然収集される資料も焼畑関係の資料を中心としたものだった。そのため、当館の五木村関係資料は多く焼畑に関わるものである。

4. 収蔵資料について

現在までに整理し、確認した資料は一覧表の通りである。法量については概報という性格上、全長のみを測定した簡易なものである。

一覧を見ると、先に述べた通り焼畑関係、山仕事の道具が中心となっていることが分かる。資料状態は全体的にあまりよくはなく、金属製品の多くはさびているし、カボキは底が抜けるなどしている。

また、名称についても過去の資料タグと現在の資料タグ(湯川着任前)のものでは表記が異なる場合もあり、それが民俗語彙であるのか、標準名であるのか判断がつかないものが多数あった。今回そこまで検討・修正する余裕がなかったため、着任前から付けられていたタグの資料名を仮に宛がって、一覧では示している。カナ表記ではあるが、民俗語彙ではなく、かつ正しい名称かどうか現時点では怪しいものも含む。その点ご理解いただきたい。

使用地は五木村内谷、高野、梶原、出羽、田口、土会平の6地区が確認された。内、土会平は収集時期④に当たり、当館坂本が収集したとされるものだが、水没地区の緊急調査の対象地域に土会平は含まれていない。昭和46年の頭地地区調査の際にもらったものかと現在推測するが、詳細は不明である。

収集時期①は、高野、梶原、田口、出羽から資料を受け、②は内谷からだから、平岡氏が当時調査したルートが内谷→出羽→頭地周辺か、その逆だったかと推測される。③も内谷で収集しているから、恐らく平岡氏が調査したルートでの調査を中心としたものと思われる。以上から基本的に頭地地区を中心とした収集活動がおこなわれたものと推測される。

本来ならば、資料の解説を細かにおこないたいところだが、資料群すべてを把握したわ

けではなく、また整理した資料についても不確定要素を残すため、ここでは1点ずつを挙げての解説はおこなわない。

5. おわりに

本資料群は、先述したように五木村でおこなわれていた焼畑を当館で常設展示するために収集された資料群である。展示のみが目的のため、焼畑に絞ってみても五木村の焼畑の全工程を、本資料群で説明することはできない。不完全な資料群である。これは長期的な展望を持った研究成果の結果として、五木村の焼畑が選ばれたわけではないからであり、そうした傾向は当館収蔵の民俗資料のすべてに及ぶ。その欠を補いながら、今後収集活動をおこなっていかなければならないが、すでに50年ほどが経過し、資料はもちろんそれを実際に使った経験がある人たちも少なくなっているのが現状である。同時に直近のリニューアルを機に、当館常設展示は市域中心の内容へと変わり、市外の資料を調査・展示するのに課題があるのも事実である。

一方、本資料群がどのような意図を持って収集され、結果欠があるとはいえ、すでに現地で見ることでできなくなった貴重な資料を含むのも事実である。本資料群の一部は、総合調査団で民具を調査された川野和昭先生、武蔵野美術大学名誉教授の神野善治先生にご来館いただき、ご覧いただいた。その中で、すでに現地でも見るのが難しい資料が含まれることをご確認いただき、資料について貴重な知見をご教授いただくとともに、今後を考える上での有益なアドバイスも賜ることができた。この成果について、本稿では十分に生かすことができなかった点は誠に申し訳なく遺憾だが、今回はその成果を踏まえて公表でき

るよう努めたい。

今後は資料群の欠を補いながら、調査・研究を推し進め、資料群の価値そのものを高めていく必要があり、その上で展示を含めた活用を計画していきたいと考えている。資料整理活動の試験的な試みとして、2024年2月に毎年当館でおこなっている誕生月間イベントにて、「民俗資料のお手入れをしよう」と題して、五木村関係資料の一部鉄製品の錆止め作業を、参加者とともにおこなった。少人数ではあったが、こちらの想像とは裏腹に存外楽しんでいただけたようである。学芸員一人だけでは困難な場面もあるのでこうした試みを通して、資料整理に携わることのできる協力者を得られれば、と期待している。

なお、本整理を通して、令和5年(2023)10月7日から12月3日の期間で、ヒストリアテラス五木谷でおこなわれた「九州山地の焼畑文化」展示に、当館五木村関係資料の一部を貸し出し、展示することができた。今後も資料整理と公表を続けながら、県内外の機関や研究者をはじめとした多くの方に当館収蔵資料をご利用いただけるよう微力を尽くしたい。

謝辞

五木村関係資料についてだけでなく、博物館活動についても貴重なご意見をいただいた神野善治先生、川野和昭先生に改めて御礼申し上げます。

また、資料整理についての重要性を理解いただき、いろいろな点でご助力いただいた当館総務班一同にもこの場を借りて御礼申し上げます。

(注1)熊本博物館『熊本博物館館報』NO.35 2022

(注2)「熊本市の和傘性製造業について」上掲書

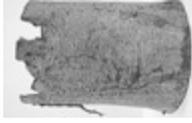
pp.121-pp.130

(注3)五木村総合学術調査団編『五木村学術調査 人文編』1987

(注4)熊本商科大学民俗学研究会『五木 民俗調査報告書』1972

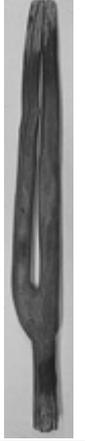
(注5)熊本博物館『熊本博物館 総合案内』1985
p.60

五木村資料一覧

番号1	番号2	資料名	法量(mm)	点数	使用地	寄贈者	収蔵年月日	画像
0272	004	マタボウ	560×80	1	五木村土会平	土会平芳蔵	19710819	
0367	002	カルカマ	400×200	1	五木村田口	山口健蔵	19770407	
0367	003	カルカマ	400×180	1	五木村田口	山口健蔵	19770407	
0364	001	ハラ	170×30	1	五木村出羽	土屋よしの	19770407	
0364	004	カボキ	直径230×340	1	五木村出羽	土屋よしの	19770407	
0366	005	トビナシナタ	680×149	1	五木村梶原	坂口喜一	19770407	

0366	009	オノ		840×192	1	五木村梶原	坂口喜一	19770407	
0366	004	トビナタ		640×145	1	五木村梶原	坂口喜一	19770407	
0365	006	カルカマ		85×140	1	五木村高野	久保田万作	19770407	
0365	004	コバキリガマ		555×200	1	五木村高野	久保田万作	19770407	
0365	001	ハラ		350×35	1	五木村高野	久保田万作	19770407	
0374	012	コシナタ		366×36	1	五木村内谷	三浦唯美	19770808	

0374	011	クスリバコ	310×270×140	1	五木村内谷	三浦唯美	19770808	
0374	013	キシウナタ	195×105	1	五木村内谷	三浦唯美	19770808	
0374	003	トビクチ	92×123	1	五木村内谷	三浦唯美	19770808	
0374	002	キシウナタ	115×230	1	五木村内谷	三浦唯美	19770808	
0374	006	ピリグチ	250×65×50	1	五木村内谷	三浦唯美	19770808	
0372	008	メソボウ	310×33	1	五木村内谷	谷口ミサ	19770808	

0372	004	ウチボウ		568×63	1	五木村内谷	谷口ミサ	19770808	
0372	014	ウチボウ		630×75	1	五木村内谷	谷口ミサ	19770808	
0372	005	ノコ		595×160	1	五木村内谷	谷口ミサ	19770808	
0372	003	コシナタ		435×70	1	五木村内谷	谷口ミサ	19770808	
0372	007	ヤネフキガマ		320×180	1	五木村内谷	谷口ミサ	19770808	
0372	012	ノコ		80×490	1	五木村内谷	谷口ミサ	19770808	

0372	002	トビナタ	605×165	1	五木村内谷	谷口ミサ	19770808	
0371	001	チャイリボウ	307×57	1	五木村内谷	竹中クニ	19770808	
0371	002	カボキ	220×65	1	五木村内谷	竹中クニ	19770808	
0370	005	コクイン	370×115	1	五木村内谷	白石栄一	19770808	
0370	004	キシウナタ	525×170	1	五木村内谷	白石栄一	19770808	
0370	001	ヤブカマ	550×200	1	五木村内谷	白石栄一	19770808	

0378	001	ウスクリ	130×140	1	五木村内谷	山本倉蔵	19770816	
0378	002	トビナシナタ	200×80	1	五木村内谷	山本倉蔵	19770816	
0375	007	キフリヤ	195×50×35	1	五木村内谷	三浦安雄	19770816	
0375	005	メグリカン	140×80	1	五木村内谷	三浦安雄	19770816	
0274	006	トビナタ	125×215	1	五木村内谷	坂本経昌	19770816	

※寄贈者「坂本経昌」は当館民俗担当学芸員。該当資料の寄贈者が不明なため採集者坂本の名前を便宜的に入れている。地区名は覚書があったため、それを入力した。